

## 第72回 令和7年8月28日（木）

### 「生き物に対して踏み込んではいけないこと。」

自分の家族が10年くらいの寿命で1日のほとんど外に出られず狭い部屋で暮らしている。このようなことがあったらかわいそうだと思いますよね。

これがペットの現実です。私も愛犬がいるので少しでも長く接してあげようと心がけています。私が帰宅すると本当に嬉しそうにしてくれます。きっと私に会うことよりも自由になれることを喜んでいるのだと思いますが。

日本の犬は人間に依存するように造られてしまっているのです、いまから野生に戻って生き抜く力はないと思います。もし人類が減びたらすぐに淘汰されてしまう運命にあるでしょう。

天敵がおらず食料も保証されているが自由のない生活と、野生のクマのように生き抜くことが大変だけど家族とともに過ごし自由に動き回る一生とどちらが幸せなのかはわかりません。それでも人間がそれを決めるのは少しおこがましい気がします。

多頭飼育崩壊やブリーダーの事業失敗、ペットショップの売れ残りなど人間が責任を取るべき問題はたくさんあります。以前神奈川県動物保護センターを見学したことがありますが、なんとも表現しがたい気持ちになりました。

ほとんどのペットショップは65歳以上の方に動物を販売する場合はしっかり相談してからと決まっているそうです。自分は元気だと思っても高齢になると何が起きるかわかりません。今年亡くなった私の母の家にも16歳になる柴犬がいて耳は遠いのですがまだまだ元気です。

私の息子が面倒を見てくれていますが実家の主になっています。

クマ被害と同様に江戸時代は野犬による被害が多発していました。特に子供が襲われる事件が多く、野犬対策は喫緊の課題となっていました。

5代将軍徳川綱吉の「生類憐みの令」は希代の悪法と言われています。犬を殺すと死罪になることもありました。それでも現在の新宿のあたりに犬の保護所を作り、野犬をそこに収容して餌を与えました。

その結果野犬による被害が皆無になり、子供も安心して外に出られるようになりました。意図がそこにあったのかはわかりませんが、このことだけを見れば優秀な政治家だったのかもしれない。